

第6章 保存活用に関する現状と課題

1 文化財指定制度

本市では、那須塩原市文化財保護条例を定め、市として貴重な文化財を「市指定文化財」として指定しており、国・県指定の文化財を合わせると、177件が指定文化財となっています(平成31年(2019)3月31日現在)。

また、未指定ではあるものの、地域で大切にされている歴史文化資源も存在しています。本市誕生以前の旧市町単位では、歴史文化資源に関する調査を実施していましたが、その種別や地域にバラつきがありました。本構想策定にあたり、自治会回覧を通じて未発見の文化財調査を実施したところではありますが、情報不足を補完する調査の継続が求められます。

■文化財調査概要

調査目的	これまで埋もれていた未発見の文化財を掘り起こすための調査
調査方法	行政連絡員を通じた自治会班回覧
調査開始日	平成30年2月20日～(継続中)
調査結果	情報提供8件 (石仏・石塔3、建造物2、自然1、文献・書籍1、遺構1)

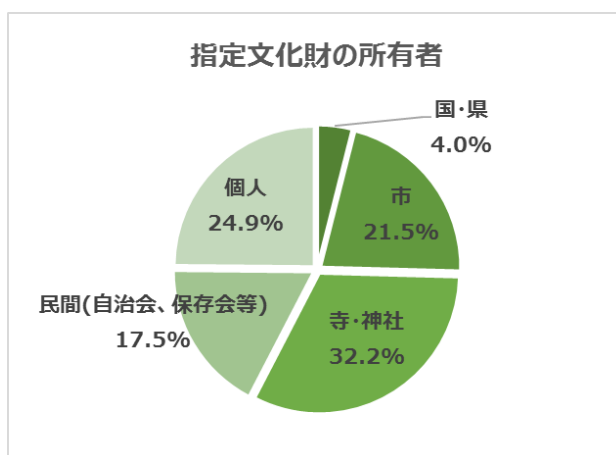
2 指定文化財の所有者

指定文化財177件について所有者の状況を見ると、国・県・市による行政所有が45件(25.4%)、寺・神社による所有が57件(32.2%)、個人所有が44件(24.9%)となっています。

本市では、平成19年度(2007)に指定有形文化財及び記念物所有者・管理者へのアンケート調査、平成20年度に指定文化財実態調査、平成30年度(2018)には指定有形文化財の所在調査を実施していますが、古くに指定された文化財も多いことから、今後も継続的なモニタリング調査が求められます。

特に、個人所有者については高齢化が進んでおり、今後の保存・継承について危惧されます。

指定文化財に対しては、条例等に基づき保存や修理のために必要な費用の一部を補助していますが、文化財所有者の自己負担が発生することに加え、文化財の保存修理にかかる費用は高額なため、限られた財源の中での効率的な支援が求められます。



(平成31年3月31日現在)

■文化財保存事業費補助金交付実績

年度	件数	補助金交付額(円)	内容
H24	3	2,157,000	天然記念物樹勢回復、建造物修復、史跡修復
H25	2	291,000	天然記念物伐採、建造物修復
H26	3	423,000	建造物修復、無形民俗文化財用具更新 2 件
H27	2	3,137,000	建造物修復、無形民俗文化財用具更新
H28	1	63,000	無形民俗文化財用具更新

※H29 及び H30 は実績なし

3 那須野が原博物館及び附属施設

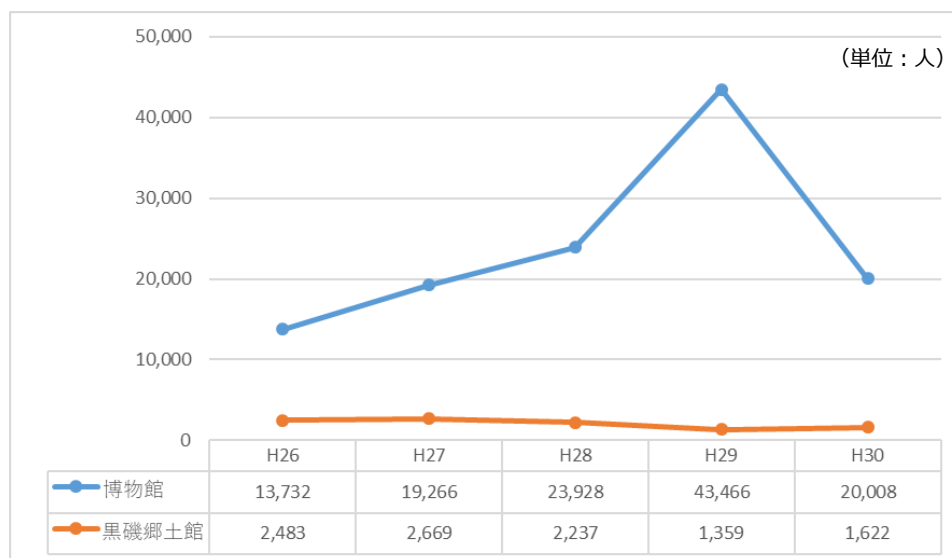
那須野が原博物館は、「那須野が原開拓と自然・文化のいとなみ」のテーマのもとに、平成 16 年(2004) 4 月に開館した公設の博物館です。平成 26 年(2014) 4 月にリニューアルされた常設展示のほか、年間を通じて企画展・特別展を開催しています。また教室・講座活動や協働事業を実施しており、本市の歴史文化の収集・調査・普及の中核施設となっています。近年の観覧者数は 20,000 人前後で推移していますが、平成 29 年度(2017)には夏季の特別展の影響により 40,000 人を超える観覧者数となりました。

今後は引き続き、来館者の反応や意見・感想を集約・分析し、企画展・特別展の内容を充実することに加え、SNS の活用などによる効果的な広報戦略も必要です。

博物館附属施設である黒磯郷土館は昭和 54 年(1979)に建築され、昔の生活道具などを主に展示していますが、観覧者数が 2,000 人に満たない状況です。今後は地域との連携が後退しないよう、きめ細やかな対応が求められます。

また、歴史文化資源を後世に伝えるため、継続的な収集・整理・保存を進めていますが、収蔵スペースの不足により適切な保存が難しい状況にあることから、新収蔵棟の建設などの検討が必要です。

■博物館・附属施設観覧者数



施設名	所在地	備考
那須野が原博物館 (平成 16 年 4 月開館)	那須塩原市三島 5-1 道の駅「那須野が原博物館」に併設	観覧料：一般 300 円 高校生・大学生 200 円 小学生・中学生 100 円
黒磯郷土館 (昭和 55 年開館)	那須塩原市橋本町 8-47 敷地内に市指定文化財「旧津久井家住宅」あり 黒磯公園に隣接	入館料：無料

■ 那須野が原博物館の収蔵品（主なもの）

収蔵分野	資料の概要
自然資料	那須野が原とその周辺の動植物・地質関係標本を収蔵 ・加賀谷直明トンボ類コレクション ・チョウ類、甲虫類（オサムシ類、カミキリムシ類、ハチ類） ・塩原地区から産出する更新世の植物・昆虫化石や中新世の貝化石 ・本市出身の地質学者・提橋昇氏の地下水探査資料群 など
歴史資料	開拓・交通・養蚕と製糸業・温泉に関わる資料を中心に収蔵 ・開拓関係古文書（那須開墾社関係文書、三島農場関係史料、三島家文書、矢板農場文書） ・東北本線、那須人車軌道、塩原軌道、東野鉄道関係資料 ・塩原温泉、板室温泉の地図類 ・養蚕、製糸関係資料 ・戦時資料 など
考古資料	縄文時代の大規模集落遺跡である槻沢遺跡から出土した土器や石器等を収蔵 ・深鉢型土器（国指定重要文化財） ・縄文中期から後期にかけての土器類 ・縄文時代の石器 など
民俗資料	庶民の暮らしを語るうえで重要な民具を収蔵 ・衣食住に関わる資料 ・商売に関わる資料 ・社会生活などに関わる資料 など
美術資料	日本の近代洋画の草分けとして名高い高橋由一作品を始めとして、本市ゆかりの作品を主に収蔵 ・高橋由一の油彩画・スケッチ・石版画などの作品群 ・那須の竹工芸作品 ・南画家高久靄厓の作品 ・彫刻家南庄作の作品 ・文明開化をテーマとした錦絵 ・塩原を描いた川瀬巴水の木版画作品 ・彫刻家三木俊治の彫刻、立体や平面作品、三木コレクション など
文学資料	那須塩原市誕生に伴い、新しい分野として位置づけ収蔵 ・塩原を描いた文学作品 など



那須野が原博物館外観



石塚（復元）



土手（復元）とヤウラ

4 観光と歴史文化資源

本市には、1200 年以上の歴史があるといわれている塩原温泉郷、「下野の薬湯」と言われる板室温泉に代表される温泉やアウトレットモール、観光牧場などがあり、多くの観光客が訪れますが、歴史文化資源と関わりのある観光施設も多く存在します。

特に塩原温泉郷は、皇族との関係性や、明治から大正時代にかけて多くの文学者や美術家が訪れたことから、文化財を活用する観光施設や、記念碑・文学碑などがあり、観光ボランティアガイドによ

る解説も行われています。塩原温泉郷を好例として、本構想で定めた歴史ストーリーと関連文化財群を活用し、個々の歴史文化資源を結びつけながら、一体的に観光プロモーションを進めていくことが求められます。

また、文化財の活用は保護あつてのものであり、今後は観光事業者、施設管理者と文化財の専門家などが横断的に連携し、より活発な活用を図っていく必要があります。

■文化財に関連する市内観光施設（主なもの）

施設名	概要	所在地	所有者・管理者等	分野
道の駅 「明治の森・黒磯」 N's YARD	国指定重要文化財「旧青木家那須別邸」に併設 美術家の奈良美智氏の作品を中心とした現代美術展示スペース	青木 27	指定管理者	歴史、建築
板室自然遊学 センター	板室と奥那須の自然と歴史を紹介する展示館	百村 3090-6	指定管理者	自然、歴史
菅木志雄倉庫美術館	現代美術家の菅木志雄氏の作品約300点を展示	板室 856	民間	美術
鶏声磯ヶ谷美術館	主に近・現代の九谷焼を展示 約2,000点を所有	関谷 1089-1	民間	美術
塩原温泉 天皇の間記念公園	県指定有形文化財「旧塩原御用邸新御座所」を含む公園	塩原 1266-113	指定管理者	歴史、建築
塩原もの語り館	案内所、資料展示室、売店、足湯温泉、レストランなどを備える	塩原 747	指定管理者	文学、美術
源三窟	源有綱が落人生活をしたとされる鍾乳洞 武具資料館を併設	塩原 1118	民間	歴史
塩原温泉 ビジターセンター	塩原の自然・遊歩道などの説明や案内 自然観察会などのイベント開催	那須塩原市 塩原前山 国有林	栃木県	自然
木の葉化石園	敷地内の塩原湖成層から採集される化石の調査、保存及び展示を行う	中塩原 472	民間	自然

5 研究・活動団体

本市には、文化財に関する様々な研究・活動団体があります。その多くは那須野が原博物館を活動拠点とし、子どもを対象とした歴史文化資源の解説や、那須地域をフィールドとして独自に調査研究を行うなど、ボランティアによる活動を行っています。

こうした団体は、本市が誕生した平成17年(2005)以前に設立されたものが多く、会員の高齢化が顕著となっているほか、新規会員が入らないなどの問題があり、今後の活動の継続が課題となっています。

■市内文化財関係研究・活動団体（主なもの）

団体名称	活動内容	活動場所
石ぐら会 (昭和57年設立)	西那須野町郷土資料館案内ボランティアとして設立され、現在は学校支援を中心に活動 展示解説、現地案内、講話を実施	那須野が原博物館
那須文化研究会 (昭和62年設立)	那須地域の資料発掘・調査を基礎とする地域の総合的な理解を目的に設立 年1回の「那須文化研究」発刊のほか、講演会・学習会を実施	那須野が原博物館

那須野が原の自然調査会 (平成 10 年設立)	那須野が原を中心とした地域の自然に親しみつつ、動植物の調査を実施し、博物館の自然資料を収集するボランティアとして活動	那須野が原博物館 調査地域は西那須野、塩原地区が中心
西那須野土器づくりの会 (昭和 55 年設立)	西那須野町郷土資料館時代から活動 博物館主催の子ども土器教室、団体主催の大人土器教室を開催	那須野が原博物館
那須野が原西部田園空間博物館運営協議会 (平成 14 年設立)	農村空間全体を「屋根のない博物館」としてとらえる「田園空間博物館」を運営 農業関係団体や 7 つの地区コミュニティ、住民団体などで組織	田園空間博物館（総合案内所） サテライト（地域遺産）がフットパス（巡回ルート）で結ばれている
語り部炉ばた	博物館無料観覧日に、常設展示室内で昔話を聞かせるボランティア	那須野が原博物館
なすの機織の会 (平成 20 年設立)	博物館主催の機織り教室で子どもたちに体験指導	那須野が原博物館
いろりの会 (平成 14 年設立)	黒磯郷土館案内ボランティアとして、昔のくらしや農具などの説明を実施	黒磯郷土館
塩原文学研究会 (平成 6 年設立)	塩原地区の文学碑等の案内を実施 塩原文学研究と文学散歩ガイド、講話の実践	ハロープラザ ガイドは塩原地区、講話は県内全域
塩原温泉郷土史研究会 (昭和 35 年設立)	塩原郷土史研究会として発足 主に塩原温泉地区に関する郷土史を研究	塩原公民館

6 郷土芸能の保存・継承

指定無形民俗文化財や未指定の郷土芸能においては、地域の方々などの手により保存団体が組織され、保存・継承のための活動をしています。平成 19 年(2007)には、保存団体の相互の情報交換の場として「那須塩原市郷土芸能保存会連絡協議会」が発足し、研修会や子ども達による郷土芸能イベントの開催などを実施し、団体同士の交流を図っています。

近年では、会員の高齢化や新規会員が入らないなどの理由により、存続が困難になっている団体もみられます。特に、古くから伝承されている無形民俗文化財では、地区が限定されている場合もあり、その傾向が顕著となっています。

こうした中、より持続性・弾力性のある組織を構築し、保存・継承に取り組んでいくことが求められます。また存続できなくなった場合は、後世に伝えるために記録化するなどの対応も重要です。

■ 指定無形民俗文化財と保存団体

保存団体	文化財名称	指定年月日	備考
百村百堂念仏舞保存会	百村の百堂念仏舞	S44.7.10 (国選択)	
中塩原関白流平家獅子舞保存会	塩原平家獅子舞	S52.7.29 (県指定)	
関谷城鉞舞保存会	関谷の城鉞舞	S59.9.7 (県指定)	
上大貫城鉞舞保存会	上大貫の城鉞舞	S60.1.18 (県指定)	
木綿畑新田太々神楽保存会	木綿畑新田の太々神楽	S47.10.25	
三本木獅子舞保存会	三本木の獅子舞	S48.12.1	
高林獅子舞保存会	高林の獅子舞	S48.12.1	近年奉納できず
木綿畑本田獅子舞保存会	木綿畑本田の獅子舞	S48.12.1	近年奉納できず
宇都野梵天上げ保存会	嶽山箒根神社梵天上げ	S52.11.26	
上塩原古代獅子舞保存会	上塩原古代獅子舞	H9.3.31	
上塩原源太踊り保存会	上塩原源太踊り	H9.3.31	
関谷囃子保存会	関谷囃子	H12.7.17	
曇沼もちつき保存会	曇沼もちつき	H12.7.17	
遅沢ばやし保存会	遅沢ばやし	H21.3.27	
西富山獅子舞保存会	西富山の獅子舞	H21.3.27	平成 2 年復活

■ 未指定の郷土芸能と保存団体

保存団体	郷土芸能名称	備考
塩原温泉まつりお囃子保存会	塩原温泉まつりお囃子	大正4年、大正天皇の御即位をお囃子で祝ったのがはじまりとされる
東那須野おはやし保存会	東那須野おはやし	昭和55年発足
太夫塚八木節笠踊り保存会	太夫塚八木節笠踊り	昭和56年発足
那須野ヶ原疏水太鼓	那須野ヶ原疏水太鼓	昭和58年発足
子ども疏水太鼓実行委員会	子ども疏水太鼓	昭和61年発足
三島おはやし会	三島おはやし	昭和62年発足
黒磯巻狩太鼓	黒磯巻狩太鼓	平成2年発足
つきの木もちつき唄保存会	つきの木もちつき	平成2年発足
那須苗取り田植え唄保存会	那須苗取り田植え唄	平成4年発足
関谷子供囃子保存会	関谷子供囃子	平成10年から「田んぼの学校」を開催
巻狩踊りお囃子会	黒磯巻狩踊り	平成5年発足
流響塩原太鼓	流響塩原太鼓	平成6年発足
大山八木節笠おどり部会	大山八木節笠おどり	平成7年創設
鍋掛もちつき唄保存会	鍋掛もちつき	平成10年度発足
埼玉子供おはやし会	埼玉子供おはやし	平成11年復活
宇都野子供獅子舞保存会	宇都野子供獅子舞	平成24年発足

7 文化財の情報発信

本市では、指定文化財に関する情報の一元化を図るため、平成23年度(2011)に文化財案内冊子「那須塩原市の文化財」を刊行しました。平成30年度(2018)には、新規指定となった文化財を加えるなどした増補改訂を行い、希望者に販売しています。

また、市ホームページにおいて「那須塩原市の文化財」に記載されている情報を掲載しているほか、動画配信サイトやSNSにて指定文化財を紹介しています。平成29年度(2017)からは市広報紙にて指定文化財に関するコラムの連載を始めるなど、様々な媒体により情報発信をしています。

今後はこれらの情報が、ほしい人の手元に的確に届くよう、分かりやすい情報提供に努める必要があります。

また指定文化財に関しては、現地に解説板を設置し、来訪者への情報提供を行っていますが、さらに魅力が伝わりやすい手法の検討が必要です。



那須塩原市の文化財—2019—



市広報紙の文化財コラム
「私のまちの近い遺産」



指定文化財の解説板

8 日本遺産

日本遺産とは「地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。ストーリーの構成要素となる文化財群を総合的に整備・活用することで、観光資源として積極的に国内外へ発信し、地域活性化を図ることを目的としています。

本市では、平成 28 年度(2016)から、大田原市、矢板市、那須町の 4 市町により、明治期の華族農場を中心とする那須野が原開拓の歴史や文化財を活用した「日本遺産」の認定に向けた取組を開始し、平成 30 年(2018) 5 月「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」が認定となりました。

歴史文化資源の活用に向けた契機として、今後も官民一体となって事業を展開し、那須野が原の魅力を伝えていく必要があります。

■認定ストーリーの概要

わずか 140 年前まで人の住めない荒野が広がっていた日本最大の扇状地「那須野が原」。
明治政府の中核にあった貴族階級は、この地に私財を投じ大規模農場の経営に乗り出します。
近代国家建設の情熱と西欧貴族への憧れを胸に荒野の開拓に挑んだ貴族たち。
その遺志は長い闘いを経て、那須連山を背景に広がる豊饒の大地に結実しました。

ここは、知られざる近代化遺産の宝庫。

那須野が原に今も残る華族農場の別荘を訪ねると、近代日本黎明期の熱気と、それを牽引した明治貴族たちの足跡を垣間見ることができます。

■日本遺産のストーリーを構成する文化財一覧（網かけは那須塩原市所在）

構成文化財名称	指定等区分	所在地
旧青木家那須別邸	国重文（建造物）	那須塩原市
大山別邸	県有形（建造物）	那須塩原市
松方別邸	未指定	那須塩原市
山縣有朋記念館	県有形（建造物）	矢板市
旧塩原御用邸新御座所	県有形（建造物）	那須塩原市
乃木希典那須野旧宅	県史跡	那須塩原市
矢板武旧宅	市史跡	矢板市
山田農場事務所跡（山田資料館）	未指定	那須町
三島農場事務所跡（那須野が原博物館）	市史跡	那須塩原市
那須野が原博物館収蔵資料	市有形、他	那須塩原市
山縣農場	未指定	矢板市
西郷神社	未指定	大田原市
大山参道	市記念物	那須塩原市
烏ヶ森の丘	市史跡	那須塩原市
平田東助の墓	未指定	大田原市
御亭山緑地公園	未指定	大田原市
那須野が原公園（県北大規模公園）	未指定	那須塩原市
蛇尾川	未指定	那須塩原市内（伏流部）
那須疏水旧取水施設	国重文（建造物）	那須塩原市
那須基線（観象台）	北端点：市指定 南端点：未指定	那須塩原市 大田原市
旧黒田原駅舎瓦	未指定	那須町
謝恩碑	未指定	那須町

「拓魂」碑	未指定	大田原市
「開拓」碑	未指定	那須町
大田原市歴史民俗資料館収蔵資料	未指定	大田原市
大田原市大野放牧場	未指定	大田原市
那須町共同利用模範牧場	未指定	那須町
千本松牧場	未指定	那須塩原市
南ヶ丘牧場	未指定	那須町
那須ワイン	未指定	那須塩原市
矢板のリンゴ	未指定	矢板市



青木邸から望む杉並木



那須野が原公園



那須ワイン

■ 旧青木家那須別邸観覧者数

(単位：人)

